

第559号



喬木村公民館：長野県下伊那郡喬木村6664



発行日 2015年10月16日
発行責任者 喬木村公民館長 穂原 美 穂
編集責任者 公民館編集部 長 仲田 久 志
印刷 龍共印刷株式会社

公民館楽遊塾第二講座

真浄寺見学

九月十三日(日) 公民館楽遊塾第三講座「真浄寺見学」が小雨の上がつた秋空のもと行われました。

真浄寺は一五三三年、室町時代末期の戦乱の時代に開山され、五百年近い歴史をもつ由緒あるお寺です。

まずは本堂前にて和尚様から喬木村の文化財に指定されている見事な阿吽の双龍の棟瓦について説明していただき、重厚な山門(鐘楼門)を拝観した後、大広間へ通していただき、心を落ち着かせ般若心経を写経させていただきました。写経は初めてという方が沢山いらつしやいましたが、誰一人声を発することなく黙々と取り組んでいました。

その後、飯田下伊那では真浄寺にしかないという坐禅堂へ入れていただき、静かに坐禅を組み、心を浄化させる貴重な体験をしました。日頃忙しさにまかせ我が

身を省みる事なく、自らの見直す良い機会を与えていただきました。感謝申し上げます。



真浄寺 境内にて

真浄寺の荘厳な奥深さに触れ、喬木村の文化財である棟瓦や坐禅堂など大切に守り、後世に残して欲しいとあらためて思いました。

お忙しい中、丁寧に、ご指導いただいた和尚様、参加していただきました皆様へ感謝申し上げます。

「少年」掲載作品第九号 椋鳩十ものがたり 36

椋鳩十顕彰会 久保田 毅

「アルプスの猛犬」昭和三十三年一月号

これは、大鹿村の北隣、上伊那郡長谷の猟師の物語です。題名の「アルプス」は南アルプスのことです。猟師は、大人の「運平」と十五歳の「三吉」です。三吉は灰坊という名前をつけた山犬を連れていきます。「明治のはじめころは、今ではたえてしまつて、一匹

て育てても大きくなると野性にかつて荒々しくなるといわれていますが、この灰坊はともよくなつき、狩りも覚えすばらしい猟犬になりました。「運平はこの灰坊がほしくてほしくてたまらなかつた。・・・が手にはいらなかつた。・・・」

「灰坊は耳とつぼをびんと立てて三吉の命令をまわっている。・・・ドドという音と同時に灰坊の小さな鳴き声が聞こえた。・・・」



「・・・灰坊とアカは主人を守るようにからだをすりよせていった。・・・三吉は突然目がさめた。山犬の遠吠えが聞こえてきた。」

「灰坊は、きずだらけになつてよたよたと三吉のところにはいよつてきた。・・・そして倒れてしまった。『こら、灰坊！』右腕を抱えると大きな声で名をよんだ。・・・」

灰坊はうす目を開けて、三吉の手の甲をなめた。それは、消えかけている命を、ようやくのことで、くいとめいているとつたような、力のない舌ざわりであった。・・・ふと顔をあげた。と、彼のそばに、大きな目玉から、大きな涙を、ポロン、ポロン落とした。大きな目玉から、大きな涙を、きず薬をとりだして、灰坊の傷に薬をぬりこんでいる運平の姿を見たのであった。」

武田信玄狼煙上げ

を上げています。今年も大勢の皆さんにご参加いただき歴史の一大イベントを楽しんでいただくことが出来ました。

今年も天候にも恵まれ、風もなかったため、遠くまで煙が上がり、遠くの狼煙もきれいにみることが出来ました。現在は下伊那、上伊那、諏訪までのリレーとなつていますが、近い将来信玄の居城のあった躰躰が崎までつなげるという夢をもつて活動しております。

山梨の市町村からも参加したいという話があり、今年も甲斐市の市長さんと、信玄と飯田下伊那の関係や狼煙の歴史について講演をしていただきました。ご協力いただいた皆さんありがとうございます。

九月五日の土曜日に第八回武田信玄狼煙上げを行いました。(喬木は独自に実施してきたので第十回目となります) 十時に根羽村の柚路峠からスタートした狼煙リレーは十五市町村三十箇所を超す狼煙台で中継され三十分ほどで伊那谷を駆け抜けました。



参加者 茶臼山にて



狼煙に点火(茶臼山)

また喬木は十周年ということで狼煙上げで指導をいただいている原重先生を茶臼山にお招きして、信玄と飯田下伊那の関係や狼煙の歴史について講演をしていただきました。ご協力いただいた皆さんありがとうございます。

現代人はいじめが行きすぎたかどうか。自分が自殺することとだけだけの人が悲しむか。人を殺したらどうなるのか。その前に苦しむことに直面しても我慢したり自分の力で乗り越えようとする判断力「分別」が乏しいというのです。「分別」と同じように日本人には「恥」という文化があります。四十七士の討ち入りのように主君の恥をそそぐためには命をかけるというところまではいきませんが、こんなことをしたら恥をかかなく、悪いことをしたら自分にとつても家族にとつても恥になるという意識がどこまで働いていましたか。

あの時

二ニュースを見ていると、いじめ、自殺、殺人など心の痛む事件が毎日のように報道されます。昔からそうだったものがなかつたわけではないのですが、最近ではあまりにも簡単に人の命が奪われていきます。原因としてネット社会の弊害、道徳感の欠如、戦後教育の問題、遊びや友達関係の希薄さなど様々なことがいわれます。確かにそうだったものが複合的に重なって起きる悲劇なのではないでしょうか。最後の最後でなぜ思いとどまらずに一線を越えてしまったのかという疑問がいつも残ります。人間としてやっていいことといけないことの判断として「分別」という言葉があります。梶田一さんは「分別」について次のように述べています。「もちろん、子どもも一人の人間として尊重され、その自主性自発性は尊重されなければなりません。しかし、その前に、大人が「こは我慢しない」「こはこうですよ」と教えずにはならない点があるはずだと思います。これが「分別」です。」

「親子でお茶会

in 曙月庵」



曙月庵 曙会と参加者

九月十五日、曙月庵にて喬木村子育てサークル「もういいかい」の親子十組が「お茶会」を行いました。

曙月庵に入るのは初めてという親子がほとんどで、薄暗い影を落とす茶室のたたずまいに緊張しつつ正座して待ちました。

お茶を点ててくださるのは「あけぼの会の方々です。まずは懐紙に置かれたお菓子をいただきます。着物の所作も美しく、「どうぞ」と置かれたお抹茶の美しい

グリーンを香りと共にゆつくりと飲み干しました。

子供の小さな手で、重い茶碗を生懸命支える姿は愛らしく笑みがこぼれます。

静かな茶筌の音や障子の眩しき、茶花を愛でつつお茶をいただく贅沢な時間。

しかし小さな子どもたちにはこの辺りが限界のようで、しだいに縁側を走りまわり、お菓子の置き換えをねだり、途中からは元氣いっぱいのにぎやかなお茶会になりました。



曙会のみなさん いただきました

参加者の感想としては「子供が意外とお茶を美味しく飲んでいた」「子供がちゃんと正座して行儀よくして

いて驚いた」「茶室でのお茶会に興味はあったが、子供連れで参加する機会はないので親子ともよい体験ができた」など好評でした。

あけぼの会の皆さまには、貴重な体験をさせていただきありがとうございます。

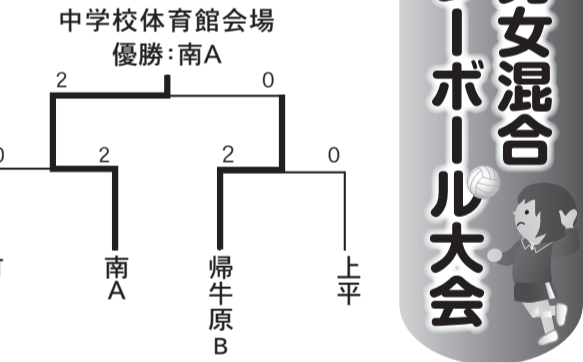
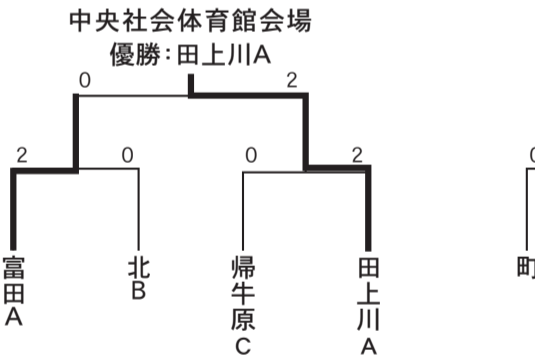
子育てサークル「もういいかい」は学遊館に集う〇から三歳児の親子で、月一回程度イベントを行っています。ご参加お待ちしております。

さて、来月十一月一日(日)には第二十七回駅伝大会が開催されます。村内の方及び村出身者、村内勤務者、小学校四年生以上の児童生徒でしたら誰でも参加可能です。多くの方の参加をお待ちしております。

九月二十七日(日)、中央社会体育館、中学校体育館の二会場で、分館対抗男女混合ソフトバレーボール大会が開催されました。

今年の参加チームは十一分館二十二チームで、予選リーグから白熱した試合が繰り広げられました。中央社会体育館では田上川Aチームが、中学校体育館では南Aチームが見事優勝を飾りました。参加分館の選手・役員の方々が大変お疲れさまでした。

分館対抗男女混合ソフトバレーボール大会



中央社会体育館 優勝 田上川分館Aチーム



中学校体育館 優勝 南分館Aチーム

長月旬会

たかぎ俳句クラブ

あかあかと手花火うちつ子供

雨上がり七色の虹山映ゆる

朝霧のほぐれて透ける山の

山裾に屯てゆるる百合の花

山峡の村々眩し稲の秋

国会へ若きコールや虫の夜

川風に乗って流るる虫の声

彼岸花飛び火する如雨の中

秒針の迫る手術も秋思かな

穂朶みに黄金風立ち波きざむ

田中 君子

村山たか子

松葉 孝子

秦 恭子

小林 カツ

松茸の届くや孫が奇声上ぐ

稲架かけて黄金に染まる二人かな

恵那山を越へて在所へ秋彼岸

こつこつと栗むく夫は米寿なり

いとこ等と久の出会いや秋深し

山を背に九月の河岸秋打す

早打ちの花火に胸を躍らされ

天龍を逆上るかに大花火

魔案の署名急かるる百舌高音

泣くこともある幸せや十三夜

盆棚に吾子の素彫りの阿弥陀仏

新涼の坊に賜はる松風呂

原 美恵

砂場 文子

松尾萬里子

下平とみ子

吉川てる子

本山 栄信

お知らせ

『第28回 椋鳩十夕やけ祭』

○期 日 11月21日(土) 13:30~16:30
 ○会 場 喬木村福祉センター 2階多目的ホール
 ○内 容

1. 開会行事 13:30~
2. 椋鳩十賞読書感想文コンクール表彰式 13:55~
3. 記念講演会 15:00~



演 題 「おっと痛快、絵本読み語りの旅でい！ 喬木の宿」
 講 師 飯野和好氏 (絵本作家)
 *講演会は子どもから大人までどなたでも楽しんでいただけます。

★夕やけ祭特別企画ギャラリー展

(椋鳩十記念館ギャラリー)
 林 湜和 「どうぶつ彫刻展」(11/12~11/29)

お知らせ

第3回 平和学習会

○内 容 DVD上映 「空から見た戦争—ゼロ戦パイロット原田要の戦場—」
 ○日 時 11月15日(日) 10:00~
 ○会 場 喬木村福祉センター 多目的ホール
 ○講 師 青木隆幸先生
 ※定員無し、申込み不要

編集後記

朝露がおりはじめ寒さが少し気になる季節になった。田んぼでは稲刈りが行われ、金木犀の甘いにおいが漂い、あちこちで秋の味覚の話題を耳にするようになった。

いよいよ秋本場といったところである。

果樹栽培が盛んなこの地域へは、県内外より多くの観光客が訪れ、秋の味覚を楽しむ。

この地域に住む我々にはあたり前のこの景色や空気がや食べ物が、都会の人々には何ともいえない感動を与えるようだ。

必要としてもらえぬ田舎心の拠り所となるふるさとを残さねばと、秋の夜空を見上げて誓う。

